平成２８年度中学生チャレンジテスト（３年生）の結果概要【学力調査の概要】

摂津市教育委員会

調査の概要

○調査実施日　平成２８年６月２３日（木）

○調査の目的　◇大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。

◇市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。

◇学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。

◇生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

○調査内容　◆学力に関する調査（国語・社会・数学・理科・英語）

◆学習状況に関する調査（生徒アンケート）

○調査参加者　中学3年生　（本市参加者　７３６人）

※教科や出題範囲が限られていることから、中学生チャレンジテストにより測定できるのは学力の特定の一部分です。

調査結果について

【教科別平均得点】

全ての教科において、府全体の平均得点を下回っています。府との差が特に大きかったのは、理科のマイナス7.4点でした。

【教科別無解答率】

国語以外の教科において、無解答率は府全体の平均よりも高い状況でした。

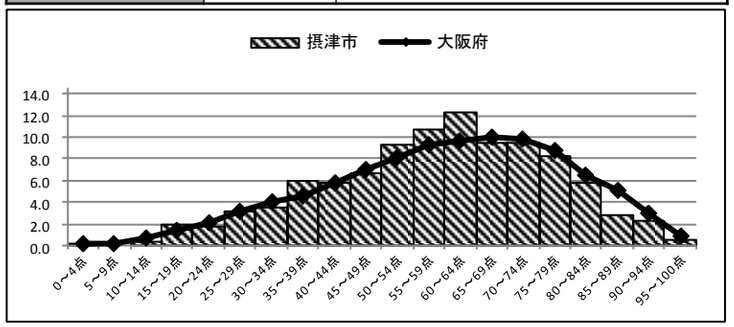
【設問別結果】

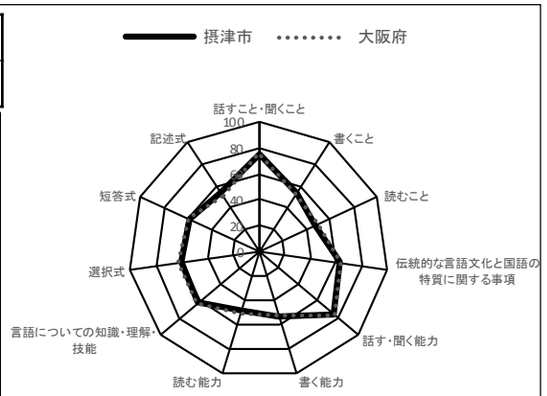
記述式の問題については、府全体においても正答率が低い状況ですが、特に理科では府との差が大きいことが課題です。しかし、国語と数学の記述式問題の正答率については府よりも高い状況でした。国語において、文章に即して正しく漢字を書く問題や、自分の考えを根拠を明確にして書く問題では、府全体よりも良好な結果で、「書くこと」全体でも府全体の正答率をわずかに上回りました。

得点分布グラフ･教科別平均点

国語

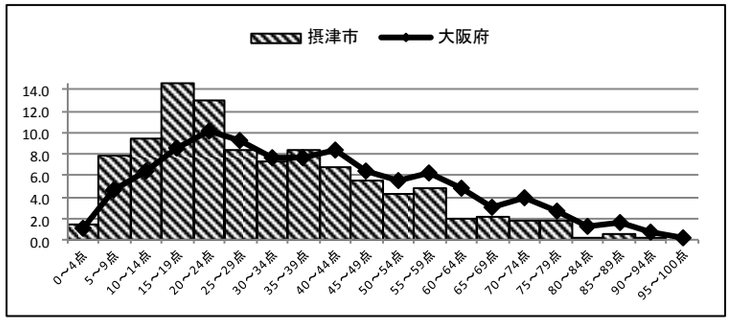
平均点	市　58.2点	（府　59.6点）
無解答率	市　9.3%	（府　10.1%）

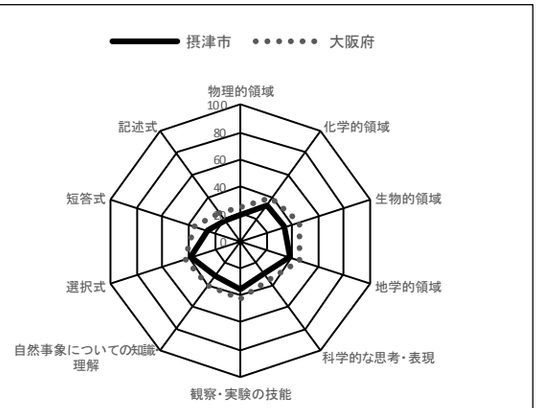




理科

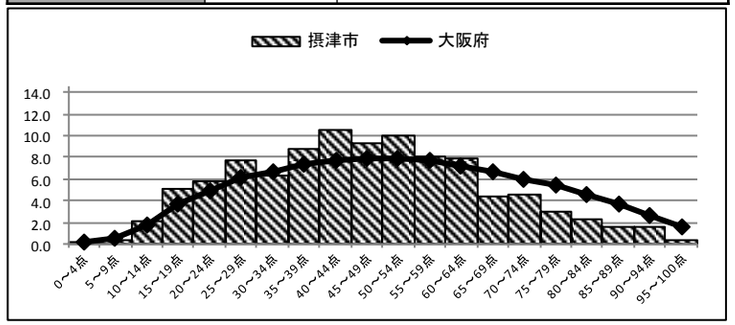
平均点	市　31.2点	（府　38.6点）
無解答率	市　11.0%	（府　9.7%）

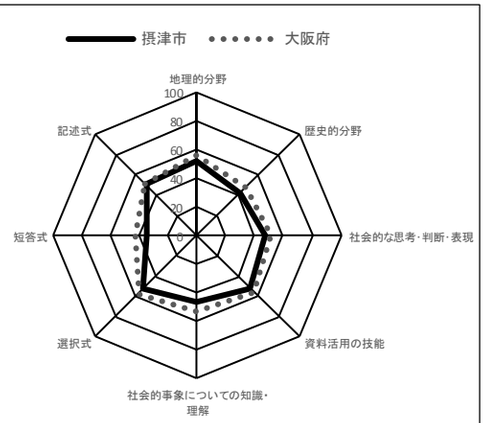




社会

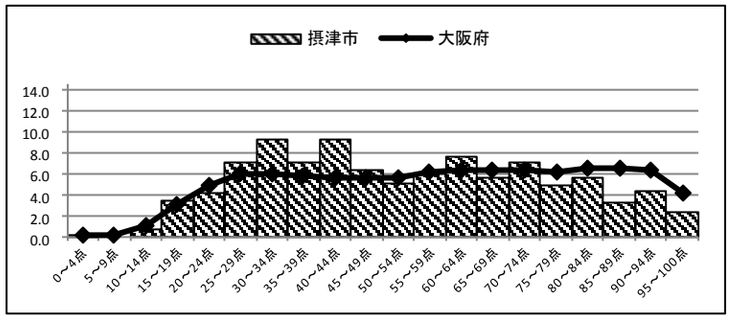
平均点	市　47.1点	（府　52.2点）
無解答率	市　7.1%	（府　6.4%）

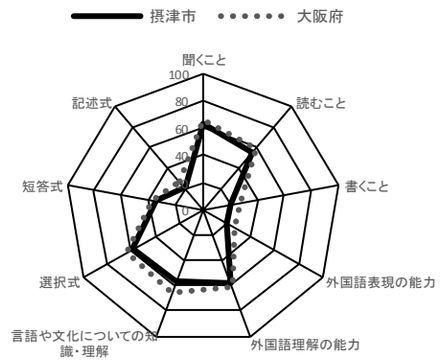




英語

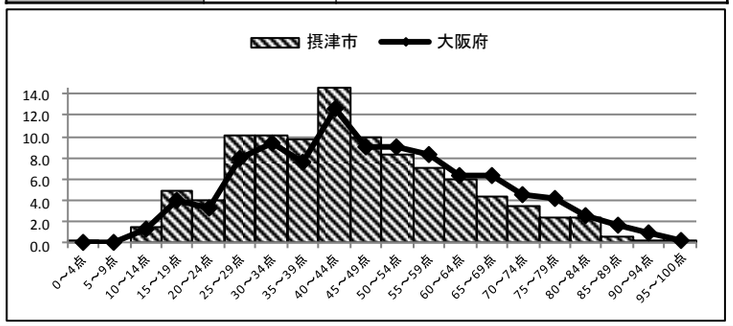
平均点	市　53.3点	（府　57.9点）
無解答率	市　5.9%	（府　5.4%）

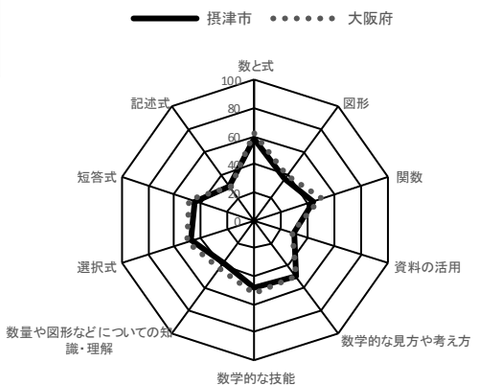




数学

平均点	市　44.4点	（府　48.1点）
無解答率	市　8.8%	（府　8.3%）





今後に向けて

各学校においても調査結果の分析をもとに学力向上の取組みの効果検証を行い、課題の共有を図るとともに、組織的な取組みを推進し、指導の改善につなげます。

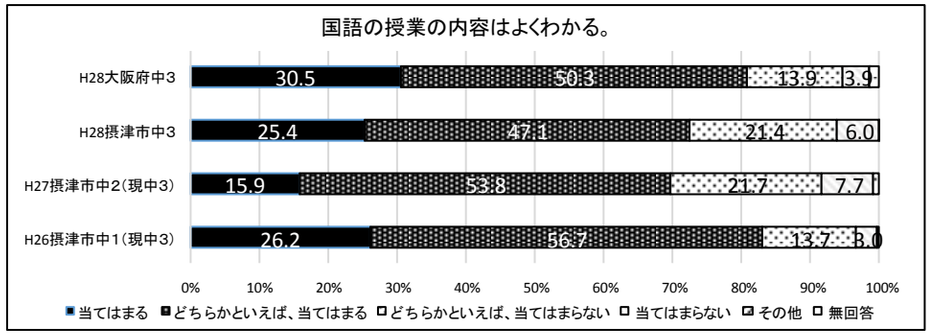
また、教育委員会では、調査結果を以下の取組みに生かすとともに、引き続き各学校の取組みを支援します。

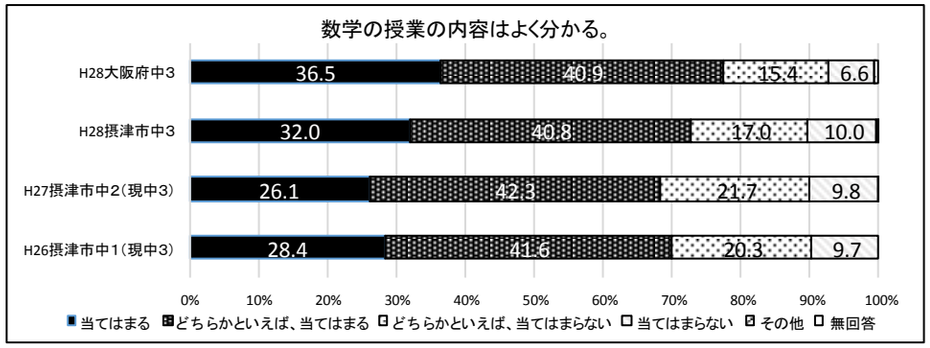
・市全体の児童生徒の学力状況について分析し、各小中学校への指導を行います。
・これまでの教育委員会や学校の取組みの効果検証を行います。
・各校の「学力向上プラン」の進捗状況の確認と指導・助言を行います。
・教員の授業力向上のための研修を実施するなど、組織的・継続的に人材育成を行います。
・すべての児童生徒にとって安全で安心な学びの場づくりと教育環境を整備します。
・地域の教育コミュニティづくりと家庭学習を支援します。

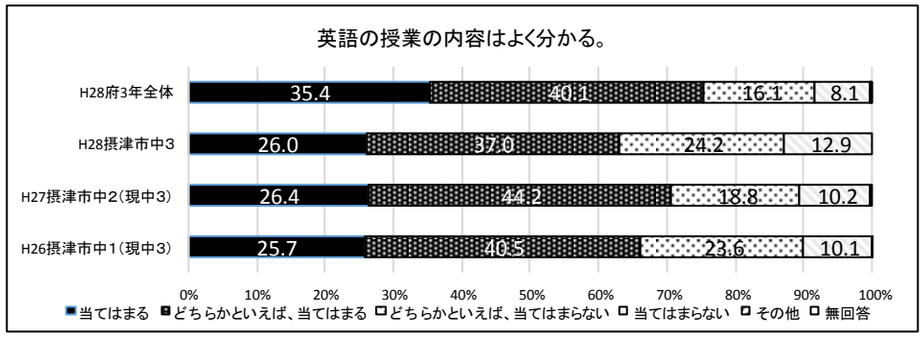
学力の定着においては、家庭での望ましい生活習慣の確立とともに、家庭学習習慣を確立することが必要です。今後も、保護者や地域の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

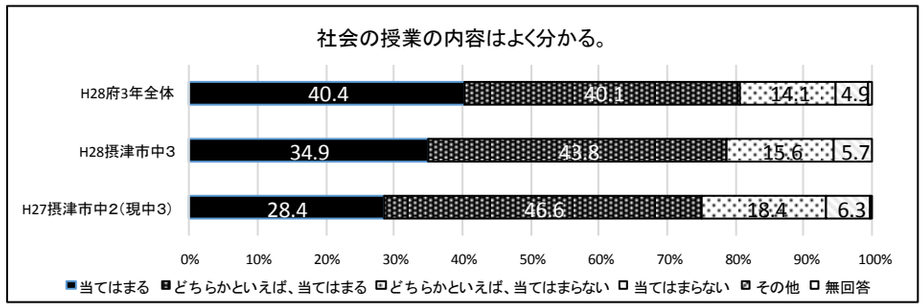
平成28年度　摂津市内中学3年生の過去3年間のチャレンジテストにおける生徒アンケート結果より

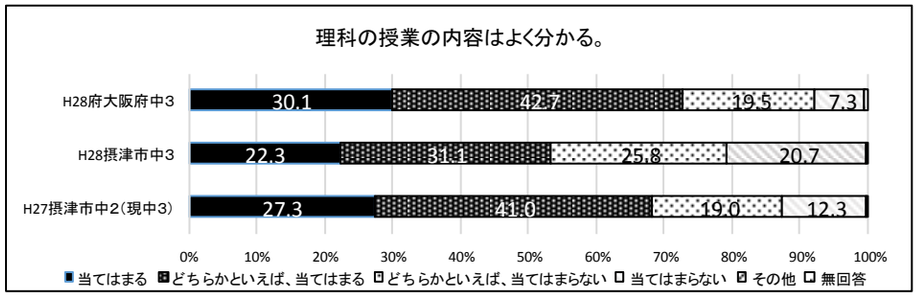
授業の内容理解度について



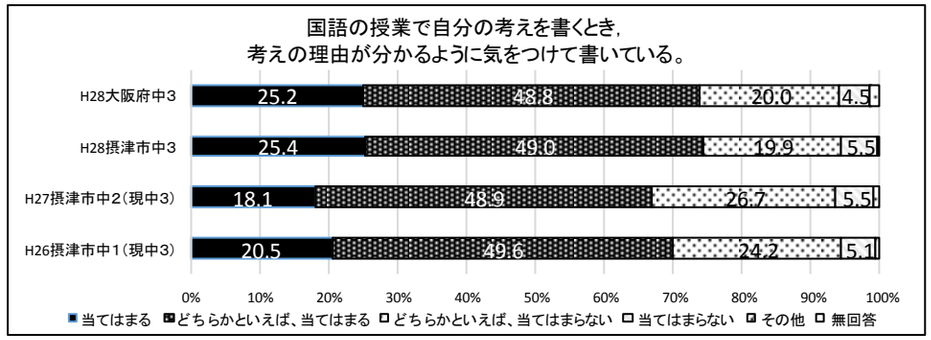


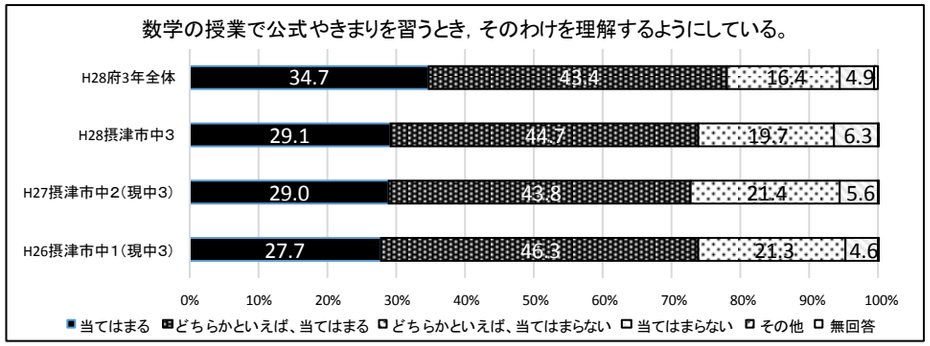


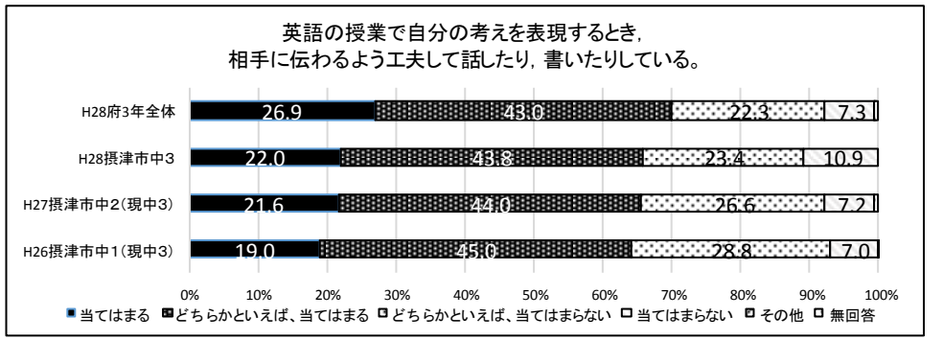


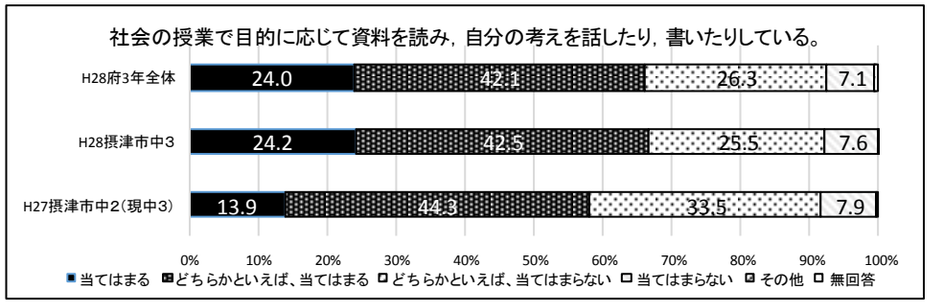


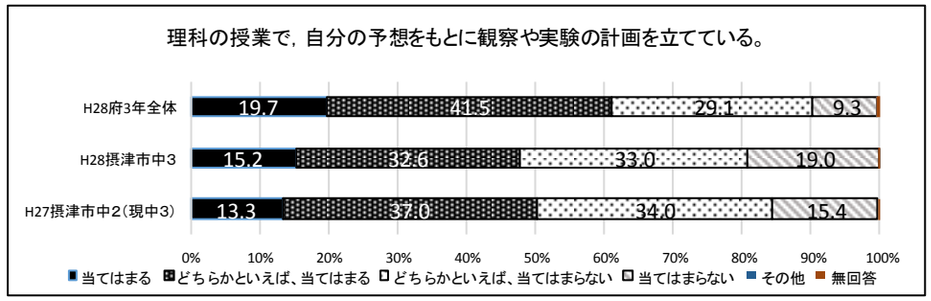
教科の学力定着のためのポイントについて











生徒アンケートの調査結果について

生徒アンケートで、授業の内容の理解度に関する項目と、各教科の学力定着のために必要とされるポイントを生徒自身が授業中に心がけているかどうかを尋ねる項目を各教科で2項目ずつアンケート調査が行われています。

グラフは、今年度の3年生が中１の時、また中２の時はどうであったかという同一集団での経年比較できるよう、示しています。

また、１年生チャレンジテストは国語・数学・英語の3教科で実施されるため、社会と理科は2年生の時との比較を示しています。

【授業の内容の理解度について】

○すべての教科において、「授業の内容がよく分かる」と肯定的に答えた生徒は大阪府全体の割合よりも低い結果でした。

○国語と数学では中２の時には授業内容への理解度が低くなりますが、中３では改善傾向にあります。社会においても、中２よりも中３の方が授業内容への理解度は高い結果でした。しかしながら、学力調査での府とのポイント差は理科に次いで大きい結果でした。

【教科の学力定着のためのポイントについて】

○国語では、肯定的回答の割合が府全体の割合を0.4ポイント上回り、経年で比較してもいちばん良好な結果でした。

○社会では肯定的回答の割合が府全体の割合を0.6ポイント回り、中２の時の結果と比較すると、8.5ポイント改善しました。

○英語については、年度ごとに改善が見られる結果でした。

○理科については、昨年度からの改善が見られず、学力調査及び生徒アンケートの結果からも課題が大きいことが明らかになりました。

※肯定的回答の割合とは、選択肢のうちの「当てはまる」「どちらかというと当てはまる」と回答した合計を表します。

いくつかの教科と項目で、今までの学校の取組みや授業改善の成果が表れる結果につながりましたが、依然として課題も多く残りました。

今後も引き続き、このような質問項目で生徒が肯定的に回答できるよう、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力の育成をめざした授業づくりを進め、学習意欲の向上に努めます。